行政視察報告書

令和７年　７月３０日

長浜市議会議長　高山　亨　様

長浜市議会議員　千　田　貞　之

私が参加した次の行政視察の結果について報告します。

記

１．　視察等名　　「恵風会、行政視察」
２．　視察日時　　令和７年７月１４日（月）～１６日（水）
３．視察先及び目的
①「小樽ライトアップ」・「北海道がんセンター視察」研修

②「縄文文化交流センター」・「函館市観光基本計画と今後の取組・展望について」学ぶ

４．調査内容感想等
①「小樽ライトアップ」観光事業・「北海道がんセンター」放射線治療の実態について学ぶ

②「縄文文化交流センター」・「函館市観光基本計画と今後の取組・展望について」研修する

・研修の目的

① 小樽ライトアップ観光の実態を知り、長浜市に生かせないか、研修する。更に、「独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター」で名誉院長の西尾正道氏から放射線治療の経験談、を聞き、放射線医療の難しさを学ぶ。

② 北海道初の世界遺産登録、国宝もある「縄文文化交流センター」を視察し、

世界遺産登録４周年、国宝「土偶」がある文化交流センターを研修した。更に函館市市役所にて観光施策を研修した。

・研修の内容

① 函館北斗駅より、レンタカーにて小樽へ向かいライトアップ事業について学ぶ。小樽港は北海道開拓の玄関口として栄え発展してきました。小樽運河は大正１２年に完成しましたが、時代が変わり戦後、港の埠頭、岸壁の整備により運河の使命は終わりました。 その後、運河は十数年に及び埋め立て論争があり、現在の姿になりました。 運河の全長は１１４０㍍で散策路には６３基のガス灯があり石造り倉庫は当時のまま残され、レストランなどに再利用されています。

夕暮れ時からは、ライトアップされ、令和６年３月より小樽国際インフォメーションセンターも開設されています。 観光案内所には英語、中国語、韓国語が話せるスタッフが常駐し、外国語に対応できるスタッフ、フリーWi-Fi環境も整備され利便性の高い案内所でした。 クルーズ船、一般観光客、団体バスなど多くの観光客が訪れていました。

「独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター」では、名誉院長の西尾正道先生にお会いして、過去の経歴、放射線医師としての御活躍を伺いました。

前身は国立札幌病院で、平成１６年には、国立病院の独立法人化に伴い国立病院機構北海道がんセンターとなり、道内がん診療拠点病院の中核を担っておられます。 令和２年１１月に新棟へ移転しPET―CT、手術ロボット、最新の放射線治療装置を備え、治験などにより新しい抗がん剤治療の最前線を目指されています。 がんゲノム医療連携病院としてがんゲノム検査と治療をされています。 外科療法、放射線療法、に加え、IMRT（強度変調放射線治療）、SRT（定位放射線治療）、IGRT（画像誘導放射線治療）、多発性骨移転の治療、化学療法、等あらゆる最新医療技術をされています。

同僚議員の藤井議員もかつて、この病院で西尾先生の執刀で放射線治療を受

け、今では完治されています。

この放射線治療は、切らずに治せる治療ですが、技術が伴い、誰でもできるものではないことを学びました。　しかも、医療機器が高額で、施設整備も必要で大きな投資に見合う採算性が低く、病院経営的には厳しいことを聞きました。

しかし、患者側からすると確実性が担保でき、選択の余地があることを学びました。

② 函館市縄文文化交流センターは、北海道で初めて、世界文化遺産に登録されて、４周年を迎えられた。北海道には約 7,400 か所の縄文時代の遺跡があります。一部の遺跡は、整備、公開がされていますが、道南、道央、道東、道北と地域ごとに特徴があり、土器や石器の形、竪穴住居など地域ごとに違っている。

この縄文遺跡のある地域は、ブナを中心とする落葉広葉樹の森林が広がり、海洋では、暖流と寒流が交わる豊かな漁場がある自然環境に恵まれ、今から、15,000 年前には土器を使用し定住を開始した。その後１万年以上農耕に移行することなく、採集・漁労・狩猟による定住を継続した。

土偶や、環状列石、周堤墓などにみられる貴重な遺産として、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。

函館市観光基本計画と今後の取組・展望について、観光部観光総務課により研修を受けました。　函館市も人口減少により産業の活力低下や担い手不足が顕著になり、地域経済の発展には、交流人口・関係人口の拡充が不可欠となっています。2024 年では、観光客数は約 602 万２千人で過去最高を記録しています。そして、宿泊客数は 56 万８千人と過去最高。更に、今年度大型クルーズ船の寄港は、７６回を予定されています。　外国人の観光客は、国際線の直行便が就航している台湾の割合が 40，５%、(23 万人）コロナ禍の前後でアメリカの伸び率が 182.4%（１万９千人）と高い推移を示しています。

観光基本計画によると、観光の価値を高め、函館を照らす、もう一回、もう一泊、もう〇〇~を基本理念に掲げ、５年後のあるべき姿を提案されている。

質の高い観光を目指し、観光消費額を向上、観光の繁閑差の是正、海外への誘

客プロモーション「#ハコラブ」の魅力PR、ロケーション支援、グルメ、インバウンド、函館山夜景魅力度向上事業・オーバーツーリズム抑止など質の高い観光の提供を促進する。　又、宿泊税を活用した持続可能な観光地づくりを目指す。　更に、北海道新幹線開業10周年に向けてのPR活動の推進など暇なく積極的に行われている。

・研修の結果を本市にどのように反映させるか

①　小樽市の小樽国際インフォメーションセンター観光案内所には英語、中国語、韓国語が話せるスタッフが常駐し、外国語に対応できるスタッフ、フリーWi-Fi環境も整備され利便性の高い案内所でした。デジタルサイネージでPR映像スポット紹介、外貨両替機もあり観光の情報収集、相談等対応され、日本政府の外国人観光案内所（ビジットジャパン案内所「カテゴリー２」）に認定されている。このように、本市でも、何かに特化した案内所の設置は今後に有効ではないか？先ずは観光客の誘客にメインの案内所の設置は必須ではないか。

北海道がんセンターのように設備、機器等大きな投資はできないが、長浜市民病院での放射線治療設備の活用は大きな武器であると思います。世界で認められ、国内でもトップクラスの循環器内科での診療体制は、年々レベルアップされ、他にない診療ができる病院として評価されています。　リニアックの活用により外科的手術に頼るだけでなく放射線治療が患者のリスクを軽減し、大きな治療効果が生み出せることは、非常に有意義であると思います。県下はもとより、他市町からの患者受け入れにより、医師のマグネット化や赤字解消に一役を担えると思います。　診療報酬の改定や、人件費、薬の高騰による経営不振を補うことのできる診療科として、がん患者の苦しみを軽減できる診療科拡充は必要不可欠ではないでしょうか。

②　北海道初の世界文化遺産は縄文文化交流センターとして設置されていますが、ユネスコ世界遺産、国宝の土偶もあり歴史上も他にない文化遺産があります。

本市においても、数々の観音文化で栄え今日まで育まれてきた歴史遺産では引けを取らないぐらいの資産があります。　これら財産を如何に活用して世界中に PR できるのか問われていると思います。　観光施策とするのか文化財として保存活用するのか様々な手法で後世に残すことをしなければならないと思います。　長浜城歴史博物館を核として、広大な長浜市内に点在する施設の広報活動が必要と思います。　各地に点在する文化遺産や宝物を如何に効率よく把握できるようにガイドマップはもちろん周遊できる環境づくりも重要であると思います。

観光 PR においては、函館市のように５年先までの基本計画、取組・展望について、コアな部分まで徹底した細部にわたるデータの検証や見通しを精査し、現況において来訪者のデータなどの把握、目的、通過圏ではなく宿泊観光客に誘導できるインセンティブを創り、即、誘客、観光消費に繋がる方向性を見出すことをしなくてはならないと思う。　黒壁を中心とすることは良いが、周囲の資源を有意義に活用することの重要性を見い出してほしい。　来年の NHK の大河ドラマに合わせ、周遊キャンペーンの積極的な売込みなど励んでみてはどうか。　本物の資源があり、歴史があることを誇りにして観光誘客の活動を期待する。

小樽運河（クルーズ船乗り場）

北海道がんセンター

函館市役所

国宝「土偶」